

イネ自身に抵抗力が つくから、本田ですっと 順風満帆



ルーチン®
粒剤

育苗期から本田まで
処理適期幅が広く、
いつでも使える「いもち剤」

イネが自らの抵抗力でいもち病と闘う、
植物病害抵抗性誘導剤



いもち病



白葉枯病



穂枯れ(こま葉枯病菌)



自然に学び 自然を守る



フミカ

- 1 育苗箱処理・湛水散布でイネいもち病に高い防除効果を示します。
- 2 は種前から葉いもち初発前までと幅広い処理時期があります。
- 3 植物病害抵抗性誘導型殺菌剤であるため耐性菌発達のリスクが小さい薬剤です。
- 4 浸透移行性に優れ、長い残効性があります。
- 5 人畜および有用生物に対しても高い安全性を示します。

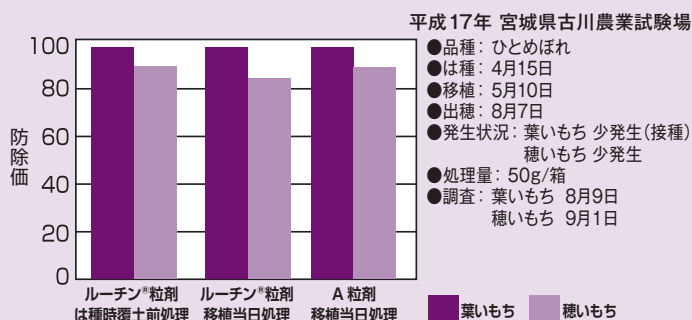
適用病害および使用方法(2019年6月現在)

作物名	適用病害名	使用量	使用時期	使用回数*		使用方法
				本剤	イソチアニル	
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	は種前	1回	3回 (移植時までの処理は1回、 本田では2回)	育苗箱の床土 または覆土に 均一に混和する。
	苗腐敗症 (もみ枯細菌病菌) 穂枯れ(ごま葉枯病菌)		育苗箱の床土に 均一に混和する。 育苗箱の覆土に均一に混和する。			
	苗腐敗症 (もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病		は種時(覆土前)			育苗箱の上から均一に 散布する。
	いもち病 白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病 内穎褐変病		は種時(覆土前) ～ 移植当日			
稲	いもち病 白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	1kg/10a	収穫30日前まで	2回	3回 (直播では種時または 移植時までの処理は1回、 本田では2回)	湛水散布

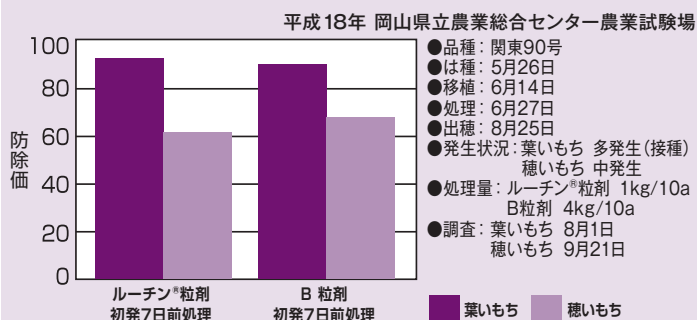
*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

試験成績

●いもち病に対する効果(育苗箱処理)



●いもち病に対する効果(湛水散布)



注意事項

- 本剤を床土または覆土に混和処理する場合、処理後速やかに使用して下さい。また本剤を処理した床土または覆土を放置しないで下さい。
- 本剤を湛水散布する場合には、発病前に予防的に散布して下さい。
- 散布に当たっては、湛水状態（水深3～5cm）で均一に散布し、散布後少なくとも7日間は湛水状態を保ち、田面を露出させず、落水およびかけ流しをしないで下さい。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないで下さい。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないで下さい。
- きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布して下さい。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の湛水による土壌への浸透をさけて下さい。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 誤食などのないように注意して下さい。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意して下さい。

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。●ラベル記載以外には使用しないで下さい。●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。●防除日誌を記載しましょう。